2025年度　中国地区協議会　褒賞登録申請書・概要書

【褒賞登録申請書・概要書】

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名称 | 会員拡大 |
| 申請部門 | ・対外事業部門　・対内事業部門 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請LOM | 中国地区　島根ブロック　一般社団法人出雲青年会議所 | | |
| LOM番号 | 106 | LOMの人数 | 37人 |
| 理事長名 | 山本　仁人 | | |
| 担当者名 | 池淵　裕也 | | |
| 担当者携帯番号（半角） | 080-5082-6161 | 担当者E-Mail  （半角） | cm190542b@gmail.com |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 本事業の参加者 | 会員数 | 延べ　　　37名 | | 会員参加率 | 100％ |
| 関係者数 | なし | | 一般参加数 | なし |
| 事業実施に至った背景  200～400文字程度 | 出雲青年会議所は設立以来、時代に即し常に「明るい豊かな社会の実現」に向け若き青年経済人が集まり、同じ志をもって「まち」や「ひと」により良い変化をもたらす運動を行ってまいりました。しかし、社会を取り巻く環境は時代と共に変化し、地域での人材不足に加え、入会希望者の減少や退会者の発生に直面しております。この「まち」に対して運動を展開できる「ひと」を増やすためには会員拡大を推し進め組織を前進させる必要があります。 | | | | |
| 事業の目的  200～400文字程度 | 「まち」に対して運動を展開できる「ひと」を増やすことにより持続可能な社会を創るため、青年会議所の使命を果たして運動を起こすことのできる新たな仲間を増やすことを目的とします。 | | | | |
| 事業の概要  200～400文字程度 | 2025年度は、期首会員数50名を目標に掲げ、研修生を迎え入れる体制を整えます。次代共創会議メンバーが中心となり、会員拡大への意識を組織全体に浸透させるとともに、全員で拡大を推進し、各メンバーが推薦者となることを目指します。昨年度の会員拡大リストをブラッシュアップし、スプレッドシートを活用することで情報を全員で共有し、より効果的な拡大活動を展開します。また、会員拡大専用のLINEグループを新たに作成・運用し、円滑な連絡と情報共有を図ります。さらに、次代共創会議が中心となり、拡大候補者と親交を深めるミニ交流会を定期的に開催し、情報収集と信頼関係の構築を通じて拡大を進めます。活動の締めくくりとして、会員拡大全体会議を実施し、取り組みの成果と課題を振り返ります。 | | | | |
| 開催時期・  タイムスケジュール | 2024年 1月17日(水)～2024年11月18日(月) | | | | |
| 2023年  11月20日　会員拡大引継ぎ  22日　事業内容検討、総務広報委員会と打ち合わせ    2024年  11月17日　リストアップ　開始  会員拡大専用LINEグループの作成  全メンバーに会員拡大ロードマップ配信  11月22日　次代共創会議にて拡大情報共有  12月22日　次代共創会議にて拡大情報共有  13月22日　次代共創会議にて拡大情報共有  14月19日　次代共創会議にて拡大情報共有  15月17日　会員拡大　開始  22日　次代共創会議にて拡大情報共有、第1回ミニ交流会  16月21日　次代共創会議にて拡大情報共有  28日　第2回ミニ交流会  17月22日　次代共創会議にて拡大情報共有  26日　第3回ミニ交流会  18月15日　第1回会員拡大全体会議  17日　会員拡大集中期間開始  19日　第2回会員拡大全体会議、拡大対象者セミナー  19月12日　第3回会員拡大全体会議  17日　第4回会員拡大全体会議  20日　次代共創会議にて拡大情報共有、第4回ミニ交流会  30日　第5回会員拡大全体会議  10月17日　第6回会員拡大全体会議  9日　研修生オリエンテーション  21日　次代共創会議にて拡大情報共有  11月18日　会員拡大　終了  22日　第7回会員拡大全体会議 | | | | |
| 開催場所 | 会員拡大:出雲市内・近辺全域  会員拡大全体会議:出雲青年会議所事務局 | | | | |
| 事業区分　新規・継続 | 継続 | | | | |
| 公益・共益区分 | 共益 | | | | |
| 事業総予算・収支  200～400文字程度 | 予算上の工夫と、予算の内訳の概算を記述してください。 | | | | |
| 予算0円 | | | | |
| 協力団体 | 共催 | | なし | | |
| 協賛 | | なし | | |
| 後援 | | なし | | |
| その他 | | なし | | |
| 事業対象者 | 出雲青年会議所メンバー | | | | |
| 行動(ACTION TAKEN)  200～400文字程度 | 事業の調査、立案、会議の流れ、実施活動について記入 | | | | |
| 本事業は、次代共創会議を中心に、期首会員数50名達成を目指して計画しました。初期段階では、過去の拡大リストや活動履歴をもとに、ターゲット層やアプローチ方法の調査を行い、既存会員からの推薦候補を洗い出しました。これを基に拡大方針を立案し、会議を重ねながら実施計画を策定。全体会議では、拡大活動の意義や方法を共有し、スプレッドシートを活用した情報共有体制を整備しました。また、会員拡大専用のLINEグループを開設し、迅速な連絡や進捗確認が可能な体制を構築。実施段階では、拡大候補者との接点を意識したミニ交流会を定期的に開催し、信頼関係を築きながら会員拡大を推進しました。活動終了後は全体での振り返り会議を実施し、成果と課題を共有しました。 | | | | |
| 結果（RESULT）  200～400文字程度 | 複数の短い文章になるように下記項目毎に簡潔に記載  1.目的がどのくらい達成できたか  2.上記の結果の想定外の結果  3.上記の結果の確認方法  4.検証結果 | | | | |
| 1.目標であった15名に対して11名でしたので達成率は73％でした。  2.特になし  3.研修生の人数  4.人数の目標を達成することはできませんでしたが、11名の研修生をお迎えすることができました。多くメンバーに協力いただけたおかげだと思います。年間を通して活動をしたことが良かったと思います。全員が推薦者になることを掲げておりましたが、非常に難しく感じました。会員拡大は全員でするもの、全員拡大をすることが重要と言われることがあります。実際には全員が訪問してクロージングできるかというとそうではないと思います。結果を出すには会員の得手不得手に合わせた仕組みづくりが重要であると考えます。交流会に連れてくることやリストアップの情報を提供するなど、拡大活動のハードルを下げ、少しでも全員が拡大に関わることができる仕組みが必要です。 | | | | |
| 地域社会への影響  200～400文字程度 | この事業が与えた地域社会への影響を記入 | | | | |
| 会員拡大は地域社会に多大な影響をもたらします。まず、地域のネットワークが強化されることで、住民同士のコミュニケーションが活発化し、相互支援の体制が整います。これにより、地域イベントやボランティア活動が盛んになり、住民の絆が深まります。また、会員が増えることで地域の資源や情報が共有され、地域経済の活性化にも寄与します。地元ビジネスへの支援や、地域特産品の販売促進などが行われ、経済循環が生まれます。さらに、会員の多様性が地域の文化や価値観を豊かにし、異なる背景を持つ人々の理解が深まることで、共生社会の実現にもつながります。このように、会員拡大は地域社会の活性化、経済発展、文化の多様性を促進し、持続可能な地域づくりに寄与しているのです。地域全体が一体となることで、より良い未来を築く基盤が形成されます。 | | | | |
| LOMへの影響  200～400文字程度 | この事業がLOMに与えた影響を記入 | | | | |
| 今回の会員拡大事業は、結果として目標達成には至らなかったものの、組織に対して多くの前向きな影響を与えました。まず、次代共創会議メンバーを中心とした取り組みにより、会員拡大への主体的な関与意識が一部のメンバーに芽生え、組織内でのリーダーシップ育成のきっかけとなりました。また、拡大リストの整備やスプレッドシートによる情報共有の仕組みづくりは、今後の会員管理や連携体制強化に資する基盤となりました。LINEグループの活用により、日常的な情報発信や連絡手段の多様化が進み、コミュニケーションの柔軟性も向上しました。さらに、拡大候補者との交流を通じて、対外的な広がりや地域とのつながりの可能性も見え始めています。結果だけにとらわれず、これらの経験を活かすことで、組織の成長と次なる会員拡大に向けた土台づくりが進んだ点は大きな成果と言えます。 | | | | |
| 事業の長期的な影響  200～400文字程度 | この事業の期待される長期的な影響を記入 | | | | |
| この会員拡大事業の長期的な影響としては、まず組織全体の「会員拡大は全員で取り組むもの」という意識の定着があげられます。短期的な成果には限界があったものの、次代共創会議を軸に主体的な動きが生まれたことで、今後のリーダー育成や組織文化の醸成に寄与します。また、会員拡大リストの蓄積やブラッシュアップも継続的な財産となり、将来的な拡大活動の基盤として活かされていきます。この取り組みの積み重ねが、将来的な会員数の安定的な確保と、持続可能な組織運営への道を開いていくことが期待されます。 | | | | |
| 考察や推奨  200～400文字程度 | 検証を踏まえた次の行動を記入 | | | | |
| 本事業を通じて、組織としての会員拡大への取り組み体制が一定程度整備された一方で、目標達成には至らず、今後の課題も明確になりました。特に、全メンバーの巻き込みや意識の均一化に難しさが見られ、推進役に頼る体制からの脱却が求められます。今後は、各メンバーの役割をより明確にし、成果を可視化することで、主体的な参画を促す仕組みが必要です。また、拡大リストや交流会の活用方法についても、ターゲットに応じた柔軟なアプローチや、参加のハードルを下げる工夫が有効と考えられます。さらに、情報共有ツールや連絡手段についても、運用ルールを明確にして活用率を高めることで、組織全体の動きが連動しやすくなるでしょう。以上を踏まえ、今回の取り組みを単発の活動に終わらせず、継続的な改善と仕組み化を進めることが推奨されます。 | | | | |
| 改善点  200～400文字程度 | どのような改善点がありますか？ | | | | |
| 本事業における主な改善点として、まず会員拡大へのメンバーの関与度にばらつきが見られた点が挙げられます。全員参加型を掲げながらも、実際には一部のメンバーに負担が偏る傾向があり、役割分担の明確化と進捗管理の仕組み強化が必要です。また、スプレッドシートやLINEグループといった情報共有ツールの活用が一部にとどまり、全体としての連携力に課題が残りました。ツールの操作説明や利用ルールの統一を行い、誰もが活用しやすい環境を整える必要があります。さらに、ミニ交流会の開催頻度や対象者の絞り込みにも工夫が求められ、拡大効果の高い接点づくりを意識した戦略的な実施が望まれます。今後は、活動のPDCAサイクルを意識し、都度改善を重ねながら、持続的かつ効果的な拡大体制の構築を目指すことが重要です。 | | | | |
| その他  200～400文字程度 | その他のアピールや補足があれば記入 | | | | |
| 本事業を通じて得られた最大の成果は、組織全体で「会員拡大は自分ごとである」という意識が徐々に芽生え始めたことです。情報共有体制の構築や交流会の実施など、今後の活動にも応用可能な仕組みが整ったことは大きな前進です。継続的な取り組みにより、より強固な組織基盤の形成が期待されます。 | | | | |
| 当日のストーリー写真  （PDF） | ・添付書類は1ファイルにつきA4用紙で2枚以内（1枚につき添付  できる写真は6枚までとします。）で作成してください。  ・作成後PDF形式に変換して提出してください。  ・別途、事業に関する代表的な写真を2枚JPEGデーターでも提出してください。（PDF資料と同じものでもかまいません）  **・**著作権及び肖像権を侵害する形での画像の使用は禁止します。 | | | | |
| メディア掲載写真  （PDF） |
| その他参考資料  （PDF） |
| 著作権及び肖像権 | 権利侵害が無い事を確認したらチェックをしてください。✓ | | | | |